

巻 頭 言

取締役 技術本部長

川 上 秀 二



昨年の 2011 年は、我が国にとっては、正に艱難辛苦に満ちた悲惨な一年でありました。激烈な大震災に津波、それに起因した原発事故、更には風水害。政治・経済に至っては、国内だけでなく世界的に激震が走った年であったと言えます。こうした状況は、当然のことながら、年が変われば一気に解決するはずは無く、徐々に安定・正常化していくもので、経営環境という観点からは、改善するにはかなりの時間を要することとなります。

しかしながら、どのような状況下にあっても、当社は前進していかなければなりません。現在、こうした状況を打破すべく各種の経営強化策を展開しておりますが、我々技術陣にとって最も肝心なことは技術対応力の強化・向上であります。技術は「人」についてまわるものです。まずは、個々人の能力と付加価値の更なる向上が最大のポイントであります。

また、我々技術陣は切磋琢磨しながら日々成長を遂げておりますが、それが独り善がりになって革新・成長を止めることになるのであれば将来はありませんし、それぞれが異なるお客様の異なる設備の建設・製作・保全等に従事している訳ですので、全技術陣の総力の結集こそが「TAKADA の技術力」であるはずで、また、お客様から観れば、当社のどの支店・支社・事業所に発注されようと「オール TAKADA での技術対応力」に期待されているのです。それを念頭におくと、お客様の日頃のご愛顧にお応えするためには、我々技術陣は、自分自身や自部門のことだけ理解しておけば良いということにはならないはずで、

「高田技報」は、1990 年 10 月 1 日に創刊しておりますが、その巻頭の挨拶に発刊の目的が明確に記されております。その目的は、「日常の事業活動や研究開発成果などをまとめて定期的に発刊することで、次世代への技術の伝承とそれを土台とした新たな技術の飛躍を期待するとともに、全社の技術陣の励みとしたい」。すなわち、当社の全技術陣に対する技術情報の水平展開と共有、そして士気・意欲向上を期待してのことでありました。

当社の企業憲章にある社是「純情」、「情熱」、「希望」。私は、我々技術陣がこの精神を忘れず常に向上心を持ち、一人ひとりが努力し続けて個々人の能力を高め、これを結集することが出来れば、必ずやこの難局を打破し、将来への更なる飛躍に繋げることが出来ると確信しております。この「高田技報」が社内で大いに活用されんことを切望する次第であります。

社内向けの話ばかりに終始し、常日頃ご愛顧戴いておりますお客様への御礼の言葉が最後となりましたが、平素より格別のご高配を賜りまして心より感謝申し上げます。弊社と致しましては、お客様に信頼される企業であり続けるべく日々努力を重ねて参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくごお願い申し上げます。